

産業建設常任委員会記録

令和元年 9 月 2 日

【開催日】 令和元年9月2日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時53分

【出席委員】

委員長	中村博行	副委員長	岡山明
委員	河崎平男	委員	恒松恵子
委員	中岡英二	委員	藤岡修美
委員	森山喜久		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰
----	-----

【執行部出席者】

経済部長	河口修司	経済部次長兼農 林水産課長	深井篤
商工労働課長	村田浩	商工労働課公共 交通対策室	工藤歩
農林水産課農林 係長	平健太郎	農林水産課参与	多田敏明
農林水産課参与	高橋敏明		

【事務局出席者】

局長	沼口宏	書記	光永直樹
----	-----	----	------

【審査事項】 所管事務調査 地域公共交通について

所管事務調査 山陽小野田市地方卸売市場について

午前10時 開会

【議事の概要】

- ・平成30年度末に策定した山陽小野田市バス路線再編計画の概要について、資料に沿って説明があった。
- ・バス路線の再編を総合計画に基づき策定している山陽小野田市地域公共交通網形成計画の実現のために行う事業の一つとして位置づけ。
- ・バス路線の再編の方向性を具体的にすることを旨とする。運行の効率化を図ることで路線の維持につなげる。
- ・路線バスの課題は調査を踏まえた中で四つの課題がある。1点目に幹線、支線の明確化とそれぞれに合ったサービスへの見直し。2点目に乗り継ぎ拠点の整備。3点目に乗り継ぎダイヤの改善。4点目に移動ニーズが高い施設等への乗り入れである。
- ・公共交通網形成計画策定時に実施したバスの利用に関するアンケートの結果を踏まえて、持続可能なバス路線を作っていくことが必要である。
- ・人口集積とバス路線の兼ね合いで運行すべき経路というのはおおむね通っていると考えている。よって現在の経路を大きく変更する必要性は少ないと考える。効率化を図るが、山口東京理科大学や小野田サンパークなどについては、公共交通の利用につながるような再編の検討が必要。

再編計画における具体的な内容についての説明は資料のとおり。

【主な質疑】

中村博行委員長 今までの交通会議の開催回数は。

工藤商工労働課公共交通対策室長 今年度の6月までで20回やっている。

河崎平男委員 いつまでにこの計画が実施されるのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 令和2年度までに行いたい。

河崎平男委員 路線の個数はこの計画どおりにされるのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 現在のところはそうのように考えているが、南部地区で非効率的な運行になっている部分は検討していく。

河崎平男委員 埴生～厚狭方面（いとね号）についてはコミュニティバス路線の位置づけか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 バス業者が撤退されたが、市が住民の交通手段確保の必要があるということで走らせているコミュニティバス路線

である。

河崎平男委員 埴生小中一貫校になったときに市としての補助はできるのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 現在のところ教育委員会と協議はできていない。

藤岡修美委員 山の井工業団地へのバスの乗り入れは需要がないため見送りとのことだが、車が使えない身障者を雇用されている企業があると聞いている。現状把握をしているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 自分たちが聞いた際にはそういった声を聞かなかつたため、こういった結論になっている。今後も引き続き要望をお伺いしていきたい。

藤岡修美委員 刈屋本山岬や理科大方面で竜王山公園等の乗り入れは検討されていないのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 日頃の要望や問合せがあるところで考えたので、このたびの再編の中では竜王山公園への乗り入れは考えていない。

村田商工労働課長 観光部門とよく調整しながら、今後検討していきたいと思っている。

藤岡修美委員 高泊方面でデマンド型交通への転換を検討されるようだが、そのときの路線を広げることは検討しているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 今と全く同じルートを通るということではない。今よりも広く回れる形に変えられたらと考えている。

恒松恵子委員 アンケートについて年齢別、世代別の分析はしているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 材料としては持っているが、年代別の分析はしていない。

中村博行委員長 今後アンケートを取る予定はあるか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 市全域を対象とするアンケートの予定はないが、令和2年度をもって網計画の計画期間を終了することに伴い、見直しを掛けることになるため、その際に検討したい。

岡山明副委員長 アンケートを取ったのは薬学部ができていない平成27年度で現状とは違うと思うが、反映できているのか。

村田商工労働課長 網計画当時はスクールバスはあった。公立化になったとき

に、バス利用が増えることが見込まれるため大学と協議し、公共交通に移管できないかと協議はしている。アンケートの反映はないが、公立化したときにバスの在り方について大学と協議はしている。

岡山明副委員長 スクールバスを廃止して負担はないか。

村田商工労働課長 スクールバスは大学が運行させているため、負担は大学がする。

岡山明副委員長 学生への負担はないか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 現在は無料であるため、公共交通に移行する際に学生の負担がなるべく少なくなるよう大学、バス事業者と話して決めていきたい。

岡山明副委員長 現在1億3,000万円ほど経費が掛かっているが、その負担が見直しの結果、どういう方向に進むか検討はしているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 詳細のものは出せてないが、少なくとも現在の補助金の規模が膨らまないように運行できればと思っている。

中岡英二委員 本山岬のバスの運行はなくなるのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 団地で人口も多く、近年はくぐり岩など観光的な面でも利用を想定しているため、運行をなくすということではない。

中岡英二委員 便を減らすということか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 現行の利用状況に見合った便数まで減便という形になる。

中岡英二委員 バスの運賃を安くして利用者を増やすことは考えているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 バス運賃については運輸局である程度示しがあるため勝手な運賃設定はできない。今のところ特定の層への補助とまでは考えていない。

森山喜久委員 市が計画主体となるコミュニティバスに関しては、利用状況に応じて施策の転換を検討するという部分は、高泊方面のコミュニティ路線をデマンド型にするという思いで書かれたということか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 デマンド型だけに限らず地元主体のコミュニティタクシー等、バス路線から違う交通手段への転換と幅広に捉えて

いただきたい。

森山喜久委員 一つ一つのエリアは逐次検討して、その結果をこういう概要版で今出されたということか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 そのとおりである。

森山喜久委員 バスの利用者数は現行維持で進捗すると考えた中での計画の策定になっているのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 利用者数は上位計画の網計画で定めた数値を引用している。

藤岡修美委員 バス停の統合のイメージがどうなるのか。JR小野田駅の駅前のトイレが使えないが、その辺りの検討はあったか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 統合のイメージは、現在サンデンだけが使っている正面のバス停を船鉄バスも使用してもらうようにつなげていきたい。トイレについてはいたずらで物が詰まること等が頻繁にあり、現在は使用できないようにしているとのことである。JRには引き続き要望をしていこうと思っている。

中村博行委員長 乗り継ぎをする場合に料金が割高になることについて検討をしてほしいと思うが検討はされているか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 料金については乗り継ぎのたびに初乗料金が掛かることで高くなってしまう。現在県内でもバス事業者さんにICカードを導入という動きがある。新しい決済手段の導入の進展と併せて考えさせていただきたい。

中村博行委員長 地域ごとにその地域の交通はどういう手段が一番いいのかというような意見を求め、地域に合ったものを考えることも当然されるべきだと思う。他市の事例を参考にすることは検討されているのか。

工藤商工労働課公共交通対策室長 それぞれの自治体が自分のところに見合った交通手段を模索されている。私どもも引き続き勉強させてもらいながら他市のいい例はしっかり見させてあげたいと思っている。

岡山明副委員長 アンケート内容をどういう形で再編計画に反映させたか、資料として出せれば出していただきたい。

河口経済部長 整理した中で御回答できればと思っている。

中村博行委員長 ほぼ工藤室長が中心にやられていると思う。人員をそろえていくことも重要と思うが。

河口経済部長 人員としては兼務ではあるが係員もいる。全員体制で対応しているところである。人員が増えれば一番いいが、現状は全員体制でやるということで対応していきたい。

中岡英二委員 山陽小野田市の路線バス再生計画の中で補助先と系統区分、乗車密度、運行回数、収益率と載っているが、赤字の金額も載せていただきたい。

工藤商工労働課公共交通対策室長 このたびはこれで成果品の形をとっている。今後計画内容等の訂正を行う際にどういった範囲まで示すべきか考えて検討していきたい。

午前 11 時 23 分 休憩

午前 11 時 30 分 再開

(以下全文筆記)

中村博行委員長 休憩前に引き続き委員会を続けます。審査番号2番の山陽小野田市地方卸売市場について、この件については先日の委員会の中で、執行部のほうに確認をしたいということがありましたので、森山委員の質問に対してその回答をまず頂こうというふうに考えております。

河口経済部長 今、委員長からありましたように、前回の委員会の中で、森山委員から中央青果の社長の交代につきまして、県への届出の話がございました。それについて調査をし、報告ができるようになりましたので、報告をさせていただきます。

深井経済部次長兼農林水産課長 先ほど部長が申しましたことについて、県のほうに確認をいたしましたところ、県のほうは、4月1日付けで文書を受理しておるということでございます。また県報への掲載でございます

けれども、これについては県のほうで県報に掲載するような事案ではないという判断をされまして、そういう理由で県報には掲載されていないということでございました。ですので県への手続は完了しているところでございます。

森山喜久委員 再確認なんですけど中央青果は県のほうに直接お出しして、それも県が受理したということで、市は経由してないということによろしいんでしょうか。

深井経済部次長兼農林水産課長 そういうことでございます。

中村博行委員長 それでは先日の案件については終わろうと思いますが、8月28日に山陽小野田市地方卸売市場運営協議会第1回が開かれたということですので、これについて資料も手元にあると思いますので、これについて説明を求めます。

河口経済部長 8月28日に第1回の山陽小野田市地方卸売市場運営協議会を開催いたしましたので、その内容について説明をさせます。

深井経済部次長兼農林水産課長 8月28日水曜日、10時30分から、山陽小野田市地方卸売市場の会議室におきまして、第1回の山陽小野田市地方卸売市場運営協議会を開催いたしました。第1回ということで、出席されました委員さん皆さんに委嘱状を市長から直接交付をされました。委員さんは、全部で一般公募を含めまして12名いらっしゃいますが、このうち1名だけ欠席をされました。出席者は11名でございます。最初に会長と副会長の選任を行いました結果、会長には、JA山口宇部統括本部にいらっしゃいます松永様。副会長には市の経済部長の河口が選任をされたところでございます。次に現在の市場の状況について、お配りしております資料の3枚目、これに基づいて状況の説明をいたしました。その後で、今後の運営協議会の進め方について、議論、協議をした

ところでございます。まず進め方につきましては、事務局といたしましては、必要に応じて開催をするというふうに考えておりましたけれども、委員さんの中から月1回という意見も出ました。そういう意見も出ましたので事務局としては9月の末に2回目を開催したいと考えております。

中村博行委員長 要するに、毎月1回は程度開かれるということになりますよね。委員の皆さんから質疑を求めます。今日は主に報告ということでありましたので、また市場については逐次いろいろな変更等があった際には委員会のほうに報告をしていただくということですので、今後またしっかりとした審査をしてまいろうというふうに考えております。

森山喜久委員 頂いた運営協議会の資料の最後。5番の今後の情勢のところなんですけれど、令和2年6月から卸売市場法が改正される話がある中で、以上2点については各中央卸売市場においてその取扱いを判断すると。地方卸売市場である山陽小野田市地方卸売市場においてもその取扱いを判断する必要がある。また、国から当市場の経営戦略の策定を求められているっていう形で書かれているんですけど、国から当市場の経営戦略の策定を求められているっていうのは、全国の全ての地方卸売市場が経営戦略を立てなさいよっていうふうになっているのか。それとも山陽小野田市地方卸売市場だけ、幾つかピックアップされた中で策定してねというふうな話になっているのか、その辺どういう状況か教えてもらえますか。

深井経済部次長兼農林水産課長 全国の公営企業が策定を求められているところでございます。

中岡英二委員 運営協議会の12名の方が忙しい中、協議されたと思うんですが、協議された議事録は作られているのか。もし作られているなら委員の方にもその内容を分かるようにしていただければと思います。

深井経済部次長兼農林水産課長 議事録については現在作成中でございます。できましたら報告もいたしますし、ホームページにも載せようとも思っております。

中村博行委員長 全部公開されるということやね。今回も一般質問、4名くらいの方が質問されるようですので、それもいろいろ参考になるような答弁があろうかというふうには思います。一番肝腎なことを聞くのを忘れちゃいけません。3月の時点で緊急避難的に社長を取りあえず深井さんがされるということでありましたが、かなりの月日がたちましたので、今どういうふうな次期社長を求められているのか、その辺りについて経過なり話していただければというふうに思います。

河口経済部長 以前から、社長の交代の話はさせていただきました。もう少し時間が掛かるかもしれませんが、今いろんなところに頼りながら、どなたか良い方をとということで、いろんな経営に詳しい方にも直接、話を伺ったこともございます。その方が直接しましょうという話にはなっておりませんが、基本的には今、いろいろな方にアプローチをしましていろいろな機関からもこういうふうなやり方もありますよという御提案もあったりしておりますので、そういうのを鑑みながら、なかなかこういう状況の中の会社でございますので、いいよと簡単に言われる方もなかなか難しいんですけども、そういうような形でまだ大変申し訳ないんですけども、まだ当たっている状況でございます。あれからは、大分何人もお話を伺っていることもありますし、いろいろな機関にも御相談をさせていただいているところでございます。これ以上のことが言えなくて大変申し訳ありませんが。

中村博行委員長 そういうふうな努力をされているということで理解したいというふうに思います。ほかはよろしいですか。今日のところはということですね。それでは以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

午前 11 時 53 分 散会

令和元年 9 月 2 日

産業建設常任委員長 中 村 博 行